

: Social Security in Review,
Social Security Bulletin,

Vol, 30, No.7, 1967).

(橋本正巳)

イギリスの保健サービス 《1965年》

本報告書の配列は、簡潔な新しい章の紹介を除いては、保健および福祉サービスの財政を扱っている1964年の配列と同じである。

長さも、いくつかの付帯項目の省略や再整理よりなる新項目の追加といったことがあるにはあるが、従来と同じであり、読みやすく、よく整理されている。

保健大臣は、この事業の長期の発展を計るため、諮問のためのすぐれた専門家のグループに委嘱している。

この事業の歳出は、9,600万ポンドも増額され、今や国の歳入の4%以上をしめるに至った。

英国の医学生および歯学の学生のわくは増えつつあり、この年に新しく100人をこえる医師が卒業した。

報告された国際的な発展としては、癌の研

究調査機関や、その他、3年ごとに開催予定の第1回連邦医学協議会の開催、また英国にきても検診や治療を受けるであろう、自国で検診を受けてきた連邦移民への対策などがみられる。

多くの人々は、X線装置が設けられて以来、ロンドン空港において、X線による検診を受けてきた。

そして、48万人をこえる中からわずかに48人、272万人の外国人の中から60人の異常が発見された。

サービスの歳出増額の主な項目は、病院事業に4,600万ポンド、調剤事業に1,800万ポンド、病院建設に1,000万ポンド、地方当局のサービスに850万ポンド、福祉給食サービスに500万ポンド（これはミルクの値上りによる）である。

財源は、大蔵省から76,800万ポンド、NH S 拠出金から14,600万ポンド、残りは、地方税と納付金によるものである。

診療に従事する家庭医の不足は、政府にとって重大な問題であった。

開業医の数は219、その助手は135の減少がみられる。

処方箋の数は、16.7%増え、その費用は、19.3%の上昇をみており、1処方箋につき、平均費用は、10シリング4ペンスになる。

上水道に弗化物を入れることは、97の地方当局で採用している。

破傷風の予防接種は、16歳以上の子ども100万人の4分の3以上に実施された。

また炭疽熱のワクチン注射は、職業上危険にさらされている労働者に利用されている。

産前産後の受診は落ちたが、子どもの診療は増えてきた。

福祉サービスによるミルクは、液体ミルクの販売総額の13%をしめて

老人と身体障害者に対するサービスと施設

ニュース



断片

は、着実に拡充されている。

これらのうち、約61,000人が地方自治体により住居を提供されているが、自治体はさらに約40,000人に対して住居を準備しており、このうち約15,000人は民間団体によるものである。

開業助産婦は、年にそれぞれ平均約30のお産を世話しているが、それよりも、むしろ多くの数にのぼる病院から早期に退院する産後の母親の世話をする。

約62,000人が、家庭給食を受けているが、このサービスがさらに週の内数日分の自己負担をかたがわりすることを要求されている。

病床数は、0.5%の減少をみたが、治癒した患者は2%の増であり、入院待機者名簿は、18,273人に上昇している。

Ministry of Health, *Annual Report of the Ministry of Health For the Year 1965*, H. M. S. O., London, 1966.

(橋本正己)

西ベンガルの農村保健サービス

西ベンガルの農村保健事業における第3次5カ年計画が、1965年に終了し、この報告は、その事業成果をのべたものである。

サービスは、治療と予防の両方の機能をそ

ニュース



断片

なえた保健所によりおこなわれた。

第1次保健所 (Primary Health Cent-

er) は、2人の医師と10のベットをもち、またその保健所支所には、1人の医師と緊急時の産婦のための2つのベットをもっていた。もちろん重病人は、病院にまかされる。

保健所は、母子保健のための診療施設を用意し、1人の保健婦と、1人の助産婦を配置し、いくつかの保健所は、救急車も備えていた。

保健所の職員で構成された家族計画指導は、母性福祉事業の一部をなしていた。

改善された保健事業の効果は、1948年に妊産婦の死亡率が、出産1,000対で8.5、乳幼児死亡率は、出生1,000対で136であったのが、1965年には、それぞれ2.7と53.2にまで下がってきたことを示している。

マラリアは、西ベンガルで最も重大な伝染病であった。

予防は、環境衛生監視調査におかれ、改善された環境を維持する段階にきている。

ツベルクリン検査、BCGの接種、及び在宅療養は、2つのX線集団検診設備とリハビリテーションの療養所の助けをかりて、結核予防の基礎になっている。

らいは、3%ないし5%の間を動いており約8万8千の人が、伝染する状態にあるものとみられる。そこで、治療に対する診療施設とベットが増設された。

痘瘡とコレラによる死亡率は、1948年にはそれぞれ1,000対0.4と0.6であったのが、1965年には、それぞれ0.02にまで減少した。人間のペストの発生は、1935年以来みない。